

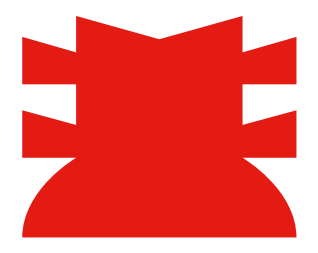



一人称工芸

FIRST-PERSON CRAFTS

令和6年度 受講者募集要領

京都府 商工労働観光部 染織・工芸課


全体統括・ディレクション：o-lab inc.



We are engaged in crafts in Kyoto,
keeping traditions alive that have been passed down from generation to generation.
It is our responsibility and honor to ensure that these crafts are carried forward into the future.

That said, we are all also individuals living in the present moment.
This includes our feelings, our preferences,
our hopes for the society and the world we live in.

It is our sincere wish that our traditional crafts can continue to be part of our lives.
Our initiative—First-Person Crafts—comes from an intensely personal place.
We believe it will be something people can identify with.



私たちは京都の工匠人。
代々受け継ぐ伝統も誇り高く、
後世に残していく使命に
心が常に引き締まる。

でも、私たちは同時に、
今を生きる一人の生活者だ。
自分が感じること、好きなこと、
なあって欲しいと願う社会や世界…

伝統工芸が、
人々に近い文化であり続けられるために、
私たちは、超個人的な思いから共感が広がるような
「一人称工芸」をはじめます。



一人称工芸とは

京都府内の伝統工芸の担い手が「両利きの工芸」を目指すゼミ形式のプログラム。それぞれが持つ伝統や技術的強みを掘り下げる「工芸の深化」に対して、一人称工芸では超個人的な視点で身の回りや社会を見渡すことでニーズを発見する「工芸の探索」を行います。伝統から解き放たれた自由な発想と工芸という解決手段を掛け合わせることで、これまでになかったコンセプト、それを具現化するプロダクトやサービスを提案します。

また、最終成果物を東京で企画展示し、参加者自身が市場のフィードバックを生の声として聞くことで各自のプロダクト・サービスと社会との繋がりの可能性を再認識し、今後のブラッシュアップに向けたヒントを得ます。

本事業は、京都府染織・工芸課が主催・運営し、o-lab inc.が全体統括を行います。

一人称工芸が生まれた背景

京都府内に限らず伝統産業は市場全体の売上減少を始めとする多くの課題を抱えるが、その中で各工芸事業者の伝統や技術的強みを抽出・整理し、現代のライフスタイルと親和性の高い商品のスタイリングやブランディングという形でブラッシュアップする試みはこれまでに多数行われている。そのような手法が一定の効果を生むことに疑念の余地はないが、同時に形式化された伝統を起点とした企画は、ある意味作り手の都合が前面に出てしまう傾向も否定できない。一方、各伝統工芸がまさにリアルタイムで起ころうとしていた当時は、工芸従事者自身が世の中を眺め、身の回りの人々の生活をつぶさに観察する中で「こんなモノが世の中にあったら！」という衝動に駆られたモノづくりや商いで賑わっていたと予想される。言い換えると、伝統化した今日の工芸は、原点から遠ざかってしまった側面があるのではないか。

そこで新しい試みとして、まず初めに各工芸従事者が、自身が受け継ぐ伝統や専門的技術から敢えて離れ、むしろ超個人的で自由な視点から身の回りや社会が抱える課題やニーズを発見する。その上でその課題やニーズに対する解決策として各自の伝統的技術に帰着させたプロダクトやサービスを構想し、提案する、といった一連の試行を行う。これは、昨今注目を浴びる「両利きの経営」における「知の深化」と「知の探索」になぞらえると、冒頭の「工芸の深化（伝統や技術的強みの抽出・整理を通してのブラッシュアップ）」に対する「工芸の探索」とも言え、その結果「両利きの工芸」としての優位性の獲得に繋がり得ると考えられる。伝統や技術起点の工芸は、同業者であれば似たような深化を辿ってしまうというリスクがあるのに対し、個人起点による「工芸の探索」は従事者自身の個性が反映されるはずであることから、オリジナリティを獲得しやすいというメリットもある。

「一人称工芸」と名付けられた本企画への参加を通じて、特に老舗の工芸従事者にとっては「商いにおける発想の制限」となってしまうがちな伝統や技術に新たなマインドセットを吹き込み、今後各自にとって最適な「両利きの工芸」のバランスを模索して頂くきっかけとなることを目指す。

インプット

伝統・技術の深掘り

超個人的視点による提供価値の模索

コンセプト化

中間評価会

自分ゴトから共感へと拡張させたアウトプット

試作&ブラッシュアップ

事前モニターテスト
(数週間)

試作進捗評価

展示企画展

プログラムの前半では、

- ・ 座学 (2名の講師によるインプット)
- ・ 伝統・技術の深掘り (各参加者によるそれぞれの伝統や技術についてのプレゼン・質疑応答)
- ・ 超個人的視点による提供価値の模索 (伝統工芸従事者としての立場から切り離れてのアイデア出し)
- ・ コンセプト化 (提供価値アイデアと各工芸技術を結びつける)

を順に行い、10月の中間評価会にて発表して頂きます。

※ 中間評価会までのゼミの出席率および進捗が一定基準を満たさない場合はプログラム後半に進むことができません。

プログラムの後半では、中間発表会を経て固められたコンセプトに基づき、3月の展示イベント (TOI Bldg./東京※予定) に向けて十分な回数の試作を重ね、プロダクトまたはサービスのブラッシュアップを行います。

また、同時並行で、コンセプトを的確に伝えるための言語化も行います。本事業の成果報告会も実施予定です。

※ 2024年12月末における試作の評価において一定基準を満たさない場合は企画展へ出展することができません。

2024

年

6

月

7

月

8

月

9

月

10

月

11

月

12

月

2025

年

1

月

2

月

3

月

インプット

座学

6/19 (水) #1 講師：綾 利洋 (o-lab inc.)
6/26 (水) #2 講師：堀田 卓哉 (株式会社Culture Generation Japan)

伝統・技術の深掘り

超個人的視点による提供価値の模索

コンセプト化

中間評価会

自分ゴトから共感へと拡張させたアウトプット

試作&ブラッシュアップ

事前モニターテスト
(数週間)

試作進捗評価

展示企画展

講評

綾 利洋 / 堀田 卓哉

10月下旬

ゼミ #1

7/3 (水)

ゼミ #3

8/21 (水)

ゼミ #4

9/11 (水)

ゼミ #6

10/16 (水)

ゼミ #7

11/13 (水)

ゼミ #8

12/4 (水)

ゼミ #10

1/15 (水)

ゼミ #11

2/5 (水)

ゼミ #2

7/24 (水)

ゼミ #5

9/25 (水)

ゼミ #9

12/25 (水)

ゼミ #12

2/26 (水)

TOI BLDG. (東京)

※予定

2024

年

6

月

7

月

8

月

9

月

10

月

11

月

12

月

2025

年

1

月

2

月

3

月



座学 #1

講師

綾 利洋
(o-lab inc.)

くらしの道具から先端医療機器に至るまで不要な境界線を設けずに手がけてきたデザイン・ブランディングの事例を通してコンセプトの重要性を学びます。また、自分ゴト起点で自由に提供価値を探索する方法についても触れ、オリジナリティが高くも共感が広がる一人称工芸のアウトプットを目指すためのヒントを得ます。



座学 #2

講師

堀田 卓哉
(株式会社 CULTURE GENERATION JAPAN)

国内外の工芸市場に精通する堀田氏の視点から、市場の動向やこれからの工芸に求められること、工芸従事者が持つべき考え方等についてお話し頂きます。

コンセプト化

7月 - 10月

伝統・技術の深掘り

初回のゼミ#1では各参加者に自らが従事する工芸に関する伝統や技術についてプレゼンして頂きます。プレゼンの準備およびゼミ中の参加者からの質疑応答を通じて自らの強み等を客観視し、今後に向けて掘り下げて頂くきっかけとします。

超個人的視点による提供価値の模索

ゼミ#2から#4では、各参加者の工芸人としての立場から敢えて切り離れ、超個人的な視点で身の回りや社会を眺めることで潜在的な課題や提供価値を見つけ出します。ゼミではそのような課題の解決が一定以上の共感を得そうかどうか、相互に意見交換することで取り組むべき課題解決の対象を絞っていきます。

ゼミ#5から#6では、絞られた課題解決の対象と各参加者の工芸技術とどうやって結びつけられるかを模索し、最終的に「どのような人にどのような価値を提供するのか」をコンセプトとして言語化します。

中間評価会

10月下旬の中間評価会で各参加者にコンセプトをプレゼンして頂き、綾・堀田両氏による壁打ちを通じて試作に向けてコンセプトをブラッシュアップして頂きます。



試作&ブラッシュアップ

11月 - 2月

試作&ブラッシュアップ

ゼミ#7から#12では、コンセプトを体現する実際のプロダクト（や場合によりサービス）の試作→評価検証→試作→…を繰り返すことでブラッシュアップを重ねます。

試作進捗評価

ゼミ#9時点（12月下旬）での試作およびブラッシュアップの進捗状況を評価させて頂き、各参加者の3月の企画展出展可否を判断させて頂きます。

事前モニターテスト

企画展に先立ち、潜在的ユーザーにプロダクトをモニター使用して頂きます。
そのため、モニター用のプロダクトはゼミ#11（2月上旬）の時点で完成している必要があります。

展示企画展

2025年3月に東京・TOI BLDG.（予定）にてプロダクトやサービスの展示企画展を行います。
ここでは各参加者に登壇して頂くトークイベントやワークショップも予定しています。





全体総括：

o-lab inc. | オーラボ株式会社

代表取締役/コンセプトデザイナー 綾 利洋

京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 特任教授

京都府公認事業「Kyo-Densan-Biz (京都伝統産業ビジネス)」 専門家
公益財団法人京都産業21 登録専門家 / 「京MED」 アドバイザー

京都大学、米国Yale大学で化学修士号を取得後、バイオ医薬系企業での研究開発の傍ら夜間学校・独学などを
経てロサンゼルス郊外のデザインコンサルティングファームに入社。シニアデザイナー兼プロジェクトマネ
ジャーとしての職歴の後、2011年、ものごとをより良くするためのさまざまな「おお」を考えるデザイン研究
所「o-lab」を京都にて創業。2016年o-lab inc. /オーラボ株式会社設立。分野間の不要な境界線が融解した自
由な視点、感性とロジックが交差する思考により、伝統工芸から先端医療機器、時に企業そのものまで、分野
を横断してコンセプト創出、デザイン、ブランディング、ディレクションを手がけている。2019年より京都工
芸繊維大学 デザイン・建築学系 特任教授を兼任。二児の父。

<https://o-lab.jp>



協力 (座学 / 中間評価 / 企画展協力)：

株式会社 CULTURE GENERATION JAPAN

代表取締役 堀田卓哉氏

株式会社 CULTURE GENERATION JAPAN

事業共創を通じて産業と文化を生み出すビジネスプロデュースカンパニー

参考：事業構想オンライン <https://www.projectdesign.jp/202107/businessdesign-idea/009566.php>

<https://www.culgene.jp>

対象者：

(右記全てに該当すること)

- ・京もの指定工芸品や伝統的なものづくり技術を活かした製品・素材（布・陶芸・金工・木工等）の製造・開発・企画等を京都府内で行っている方
- ・事業完了（令和7年3月末）まで継続して活動に取り組める方（毎月1～2回、平日日中に実施するゼミに原則参加できる方）
- ・新たなプロダクトやサービスづくり、販路開拓に意欲のある方
- ・自社の活動として取り組める方（事業主以外の方）

※ 京もの認定工芸士など若手職人の方を主な対象とします。

※ ゼミの高出席率や進捗が必須条件となるため、自ら高い意欲を持って主体的に取り組むことができるか（次回ゼミまでの課題等への対応含む）を選考の基準とします。

参加料：

2万円（年額）

※ 開発試作費、デザイン発注、旅費等、各自で必要になる経費はご負担いただきます。

応募・応募期間：

応募期間：2024年5月1日（水）～5月31日（金）

応募用紙にて、下記メール宛てご応募ください。

※ 参加には審査がございます。

※ 京都府等が実施する販路開拓プログラムを受けられていない方を優先します。

採択事業者数：

5社程度

事業の進め方：

京都市内各所にて対面（場合によりオンライン）

お問い合わせ：

京都府 商工労働観光部 染織・工芸課 工芸係

担当：西脇 075-414-4858

提出先： k-nishiwaki53@pref.kyoto.lg.jp